群教セ	G02 － 02
	平18.234集

社会的事象の意味を考える力を育てる指導の工夫

── キーワードをつなげる活動を通して ──

特別研修員　　提橋　浩二　　（みどり市立あずま小学校）

《研究の概要》

本研究は、小学校社会科における問題解決的な学習過程に、学習問題の解決に必要な社会的事象をキーワードとして見いだし、それをつなげる活動を位置付けたものである。児童は、キーワードについて追究し、追究・交流の結果から新たなキーワードを見いだし、関連のあるものを線でつないで予想を直したり、それを因果関係からとらえ直したりした上で、学習問題に対する考えをキーワードを使ってまとめる活動を行った。

○　はじめに

児童がめまぐるしく変化する現代社会を生きていくためには、社会や社会的事象に関心をもち、主体的にかかわりながらそれらの意味を多面的に考え、公正に判断し、適切に行動できるようにすることが大切である。

本校の児童は、先人の業績や文化遺産等を調べる活動に意欲的に取り組むことができている。しかし、学習問題に対する自分の考えや追究への見通しをもつ力については不十分であると感じる。また、追究の中で得た社会的事象と学習問題とのかかわりを意識したり、社会的事象の意味を考え、それをまとめたりすることのできる児童は限られている。これらのことから、自分の考えや見通しをもつ力と社会的事象の意味を考える力を育てるための工夫が必要と考えた。

そこで、本研究では、問題解決的な学習過程において、学習問題に対する予想にかかわる社会的事象を視点（キーワード）にして調べ、その中で分かった事象の関連性や因果関係をとらえ、表現する活動を取り入れることとした。つかむ過程で、児童は自分なりの予想を立てる。そして、追究の視点としての社会的事象（キーワード１）を見いだし、それを使って予想を修正する。このことによって、児童は学習問題に対する考えを巡らせ、社会的事象の意味を具体的に考えたり、追究への見通しをもったりすることができると考えた。調べる過程では、キーワード１を追究する中で得た事象について、関連のあるもの（キーワード２）を見いだし予想を再修正する。これによって、事象相互の関連性に気付き、学習問題に対する考えを広げることができると考えた。まとめる過程では、追究結果を伝え合い、その中や個別追究の中で得た社会的事象（キーワード２）について関連性や因果関係をとらえる。これを基にして、キーワード１・２を使って学習問題に対する考えを再構成する際、自分の考えを深化させることができ、児童は社会的事象の意味を広い視野から考えることができるようになると考えた。

Ⅰ　研究の概要

1　基本的な考え方

(1)　社会的事象の意味を考える力とは

本研究における社会的事象の意味を考える力とは、社会的事象の原因、社会的事象が与えた影響や役割などについて広い視野からとらえて考える力のことである。この力は、複数の追究結果を比較・検討し、関連性を見いだしたり、それを再構成したりする活動を通して育成されると考えた。

2　研究の内容及び方法

(1)　研究の内容

①　研究の手立て

ア　つかむ過程において、学習問題を追究する視点としてのキーワード１を見いだして、予想を修正する活動を行うことで、社会的事象の意味を具体的な視点をもって自分なりに考

えることができるようにする。

イ　調べる過程において、追究結果から学習問題の解決に必要なキーワード２を見いだし、キーワード１・２を線でつなげ、予想を再修正する活動を行うことで、学習問題に対する考えを広げることができるようにする。

ウ　まとめる過程において、キーワード１・２を使って学習問題の結論を文章で再構成する活動を行うことで、社会的事象の意味を広い視野から考えることができるようにする。

②　キーワードを見いだす

本研究におけるキーワードとは、追究の視点として集約した社会的事象（キーワード１）と、追究・交流の中で得た社会的事象（キーワード２）を指す。キーワードを見いだすために、次のような活動を行う。

○　つかむ過程では、複数の社会的事象から追究の視点としての社会的事象（キーワード１）を見いだす活動。

○　調べる過程とまとめる過程では、自分の追究結果や交流結果から学習問題の解決に必要な社会的事象（キーワード２）を見いだす活動。

これらにより、学習問題とキーワード１を関連付けながら追究したり、学習問題について考える中でキーワード相互の関連性に気付いたりすることができると考える。

③　キーワードを使って予想を修正する

予想を修正するとは､学習問題に対する予想を、キーワード１やキーワード２を使って具体的に考え直す活動のことである。

○　つかむ過程では、キーワード１を使って予想を修正する活動を行う。これにより、学習問題について具体的な視点で考えることができると考える。

○　調べる過程では、学習問題の解決に必要なキーワード２を見いだし、キーワード１・２の相互の関連性を考え、それらを使って予想を再修正する活動を行う。これにより、学習問題に対する考えを広げることができると考える。

④　キーワードをつなげる活動

キーワードをつなげる活動とは、関連のあるキーワードを相互に線で結ぶ活動、結んだキーワードの因果関係をとらえ、キーワード１・２を使って学習問題に対する考えを文章で再構成する活動のことである。

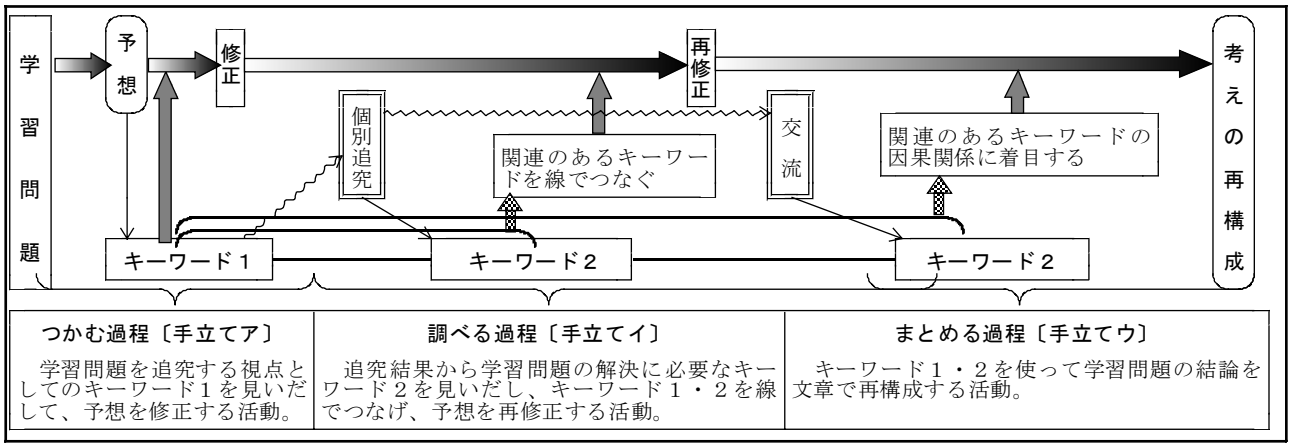
○　調べる過程では、自分の追究結果からキーワード２を見いだし、関連のあるものを線で結んだ上でキーワード１・２を使って予想を再修正する活動を行う。これにより、キーワード１・２の関連性に気付き、予想を再修正する中で学習問題に対する考えを広げることができると考える。

○　まとめる過程では、追究結果を伝え合う中で自分の追究について加除・修正を加え、新たなキーワード２を見いだす。そして、関連のあるものを線で結び直すことで、広い視野から学習問題について考え直すことができると考える。

さらに、キーワード１・２の因果関係をとらえた上で、キーワードを使って学習問題に対する自分の考えを再構成する。

これらのことを通して、とらえ直した関連性、因果関係を根拠として学習問題に対する自分の考えを深め、社会的事象の意味を広い視野から考えることができるようになると考える。

⑤　基本構想図



(2) 研究の方法

① 実践の計画

対象	みどり市立あずま小学校　６年（20名）
単元名	世界に歩み出した日本
実施期間	平成18年10月中旬～11月上旬

② 抽出児童

Ａ男	意欲的に追究活動に取り組め、必要な資料を適切に収集・選択する力があるが、社会的事象相互の関連性を考える力が弱い。まとめる過程において、社会的事象にはかかわりがあり、それらが原因と結果によって結び付いていることに気付かせ、自分の考えを表現できるようにしたい。
Ｂ女	地道に追究活動に取り組むことができるが、自分なりの考えをもって追究したり、社会的事象の意味を考えながら自分の考えをまとめたりすることを苦手としている。追究する対象を限定する中、追究・交流結果を基に社会的事象相互のかかわりに気付かせ、自分の考えを表現させたい。

(3) 単元の目標と評価規準

目標	日清、日露戦争、条約改正、産業や科学の発展などなどについて調べ、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上していったことを理解するとともに、我が国の近代化に貢献した先人の努力を思う心情と先人の業績が我が国の国家・社会の発展に果たした役割を考える力を育てる。			
評価規準	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
	日清・日露の戦争や条約改正、科学の発展などに関心をもち、学習問題を意欲的に調べようとしている。	我が国の国力が充実し、国際的地位が向上していった様子を、日清・日露の戦争における勝利、人物の働きや産業の発展を通して考えることができる。	調べる観点を明確にし、各種の資料を活用して調べ、結果を整理し、分かりやすくまとめることができる。	日清・日露の戦争における勝利や条約改正、科学の発展などにより国力が充実し国際的地位が向上したことが分かる。

(4) 指導計画（全９時間）

過程	時	主な学習活動・内容	指導上の支援及び留意点	形態	評価項目（評価方法）
つかむ	１ ＜手立てア＞ ・ ２ ＜手立てア＞	○条約改正に向けた国民の声の高まり、条約改正までの経過をとらえ、学習問題を設定する。	○ノルマントン号事件の風刺画や条約改正に向けた政府の交渉経過だけを示した年表を取り上げ、学習問題を設定できるようにする。	一斉 ↓ 個別	関・思：条約改正までの近代化に向けた諸改革や出来事を調べるとともに、キーワードを用いて予想を修正することができる。 （ワークシート）
		なぜ不平等な条約をなくすことができたのだろうか。			
		○自分なりの予想を立て、予想に関して具体的な言葉を見いだし、それと関係のある出来事を調べる。 ○調べる視点として集約したキーワード１を使って自分の予想を修正し、学習計画を作る。	○不平等条約の締結理由を考えることで、予想を立てることができるようにする。 ○明治政府の諸改革や日清・日露戦争等を押さえ既知と未知を明らかにすることで、調べる社会的事象を焦点化できるようにする。 ○予想の修正にあたって、複数のキーワード１をつなげるなどして直すように伝える。 ○調べる順序、使う資料を計画立てることで、追究に見通しがもてるようにする。		
	３	○キーワード１について	○追究するキーワード１を原因、結果、		関・技・知：キーワード

調べる	・4・5＜手立てイ＞	調べる。 ○追究結果から見いだした関連性のあるキーワード２を線でつなぎ、自分の考えを修正する。	影響を視点にしてまとめるように伝える。 ○進捗状況から活用する資料について助言する。 ○見いだしたキーワード２を関連性を視点にして線でつながせることで、複数の社会的事象がかかわりあっていることに気付けるようにする。 ○線でつないだことを基に、キーワード１・２を使って自分の考えを修正することで、考えに広がりがもてるようにする。	個別	についての各種資料を収集し、適切に読み取るとともに、結果を整理しながらまとめ、自分の予想についてキーワードの関連性を考えながら修正することができる。 （ワークシート）
まとめる	6＜手立てイ＞	○最初に調べたキーワード１が同じ児童同士で追究結果を伝え合う。 ○全体で追究結果を伝え合い、その他のキーワード１について概観する。 ○補った内容について関連のあるものを線でつなぐ。	○最初に調べたキーワード１が同じ児童でグループ構成をし、追究結果に漏れや落ちがないようにする。 ○全体での交流により、自分の追究に加除・修正をしたり、学習問題に対する自分の考えを広くとらえ直したりできるようにする。 ○線でつなぐことで、より広い視野から社会的事象の関連に気付けるようにする。	小集団 ↓ 一斉	技・思：追究した結果を分かりやすく伝えたりメモを取ったりするとともに、社会的事象相互の関連性をとらえることができる。 （ワークシート）
	7＜手立てウ＞	○分かった社会的事象の因果関係を考える。 ○学習問題に対する自分の考えについてキーワードを使って文章で再構成し、発表し合う。	○前時でつないだ線を矢印に変えることで、社会的事象同士の因果関係や関連性をとらえられるようにする。 ○社会的事象の関連性を基に、キーワードを使って学習問題についての考えを文章で書くことで、社会的事象の意味を考える力の基礎を培えるようにする。	一斉 ↓ 個別 ↓ 一斉	関・思・知：条約改正に成功した理由を、キーワード同士の関連をとらえながら文章で表現することができる。 （ワークシート）
		日本が日清・日露戦争で勝ち、領土を広げたり産業を発展させたりして国際的地位が高まったため、不平等な条約をなくすことができた。			
広げる	8	○韓国併合と日本の植民地政策について知り、それらについて自分の考えをもつ。	○前時までの韓国併合に関した追究結果の補足・修正をするよう伝える。 ○植民地下の朝鮮の人々の思いや願いを考えることで、植民地政策や当時の日本についての考えをもつことができるようにする。	個別 ↓ 一斉 ↓ 個別	関・思・知：日本の植民地政策を基に、植民地となった朝鮮の人々の気持ちについて考えることができる。 （ノート）
	9	○産業の発展にともなう人々の暮らしの向上や民主主義の動きについて調べ、日本国内の生活や社会の変化について理解し、自分の考えをもつ。	○産業の発展が人々の暮らしの向上につながったことだけでなく、自然環境や社会に与えた負の面としての影響が存在することをとらえることができるようにする。 ○民主主義への動きを調べることを通して、人々の思いに着目できるようにする。	個別 ↓ 一斉 ↓ 個別	関・思・知：人々の生活の変化、女性の地位向上、差別の撤廃、選挙制度の実現など民主主義への動きを理解し、それらについて考えをもつことができる。 （ノート）

Ⅱ　実践の概要

1　学習問題を追究する視点としてのキーワード1を見いだし、予想を修正する活動

つかむ過程において、児童は条約改正の関連年表を基にして、学習問題「なぜ不平等な条約をなくすことができたのだろうか」を設定し、不平等条約の締結理由を確認した後に自分なりの予想を

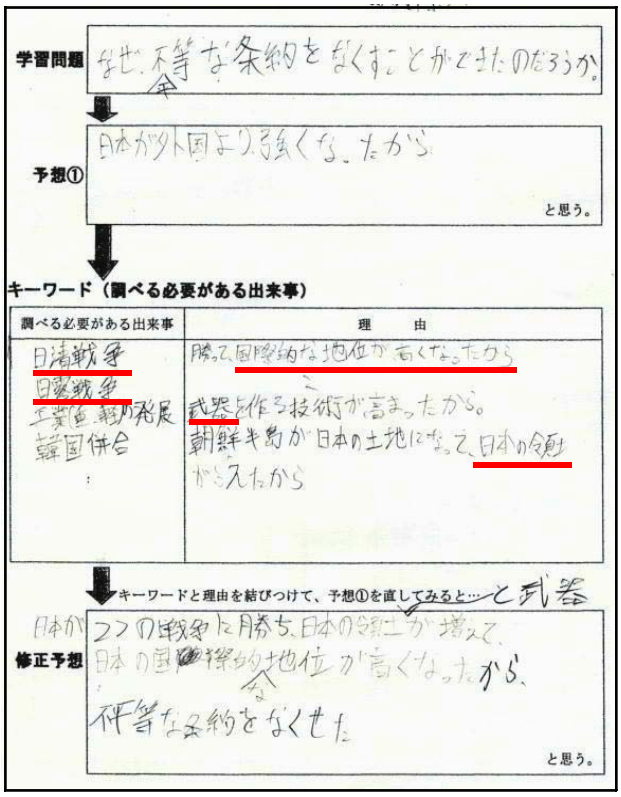
立てた。「他国よりも力が強くなったから」、「各国が弱くなったから」、「外国との貿易で強い武器を手に入れたから」といった、不平等条約の締結当時の日本と諸外国との力関係に注目して予想を立てた児童が11名いた。「日本が強い要求をいっぱいしたから」、「外国を説得したから」、「アメリカと仲よくしてあきらめさせたから」など、明治政府の粘り強い条約改正交渉に注目して予想を立てた児童が８名いた。予想を立てられなかった児童が１名いた。

この後、「国の力」を具体的な言葉に置き換えるように投げかけたところ、「武器」、「ものを作る技術」、「お金」、「領土」に集約され、これらの言葉について調べることのできる社会的事象を資料集の年表から見いだす活動に取り組んだ。その結果、児童は「日清戦争」、「日露戦争」、「軽工業が発展した」「八幡製鉄所が仕事を始めた」、「重工業が発展した」、「生糸生産が世界一になった」、「韓国併合」という社会的事象を書き出した。そして、追究の視点としてのキーワード１を「日清戦争」、「日露戦争」、「工業の発展」、「韓国併合」の４個に集約した。

次に児童はキーワード１、あるいはそれを調べる理由として挙げたことを使って予想を修正した。「日清・日露戦争や工業の発展、韓国併合などによって、日本の力が認められたから」、「武器の技術を高めると戦争に勝ち、領土が増えるので日本が強いと認められたから」など４個のキーワード１にかかわる言葉を使った児童が４名いた。「戦争に勝ち、領土が増え、他国に認められたから」、「戦争で勝ったから力を見せつけたし、併合で領土が広くなったから」など３個のキーワードにかかわる言葉を使った児童が10名いた。「日本は重工業などを発展させて、銃などを作り、他の国を攻めて土地を手に入れていったから」、「外国から見て日清・日露戦争で勝った日本と仲良くなれば、戦争で他の国に勝てる確率が上がるから」など２個のキーワードにかかわる言葉を使った児童が６名いた。最初の予想を立てられなかった児童も、日清・日露戦争で勝ったことを基にして「戦争で勝ったため力を見せつけて、他の国が日本を認めたから」と、２個のキーワードを念頭に置いて修正予想を書くことができた。

Ａ男は、資料１のように当初の予想を不平等条約の締結当時の日本と諸外国との力関係に着目して「日本が外国より強くなったから」としていた。そして、キーワード１を見いだし集約した結果、「日本が２つの戦争に勝ち、日本の領土と武器が増えて、日本の国際的な地位が高くなったから」と、４個のキーワード１を意識して予想を修正した。これは、Ａ男が年表から社会的事象を知るとともに、キーワード１とそれを調べる理由として書き出したことを基にして、自分の当初予想の「外国より強い」をより具体的に考え直したものととらえることができる。

資料１　Ａ男の当初予想の変化


学習問題　なぜ、不等な条約をなくすことができたのだろうか。

予想①　日本が外国より強くなったから　と思う。

キーワード（調べる必要がある出来事）

調べる必要がある出来事	理　由
日清戦争 日露戦争 工業(重工業)の発展 韓国併合	勝って国際的な地位が高くなったから 武器を作る技術が高まったから。 朝鮮半島が日本の土地になって、日本の領土から入ったから

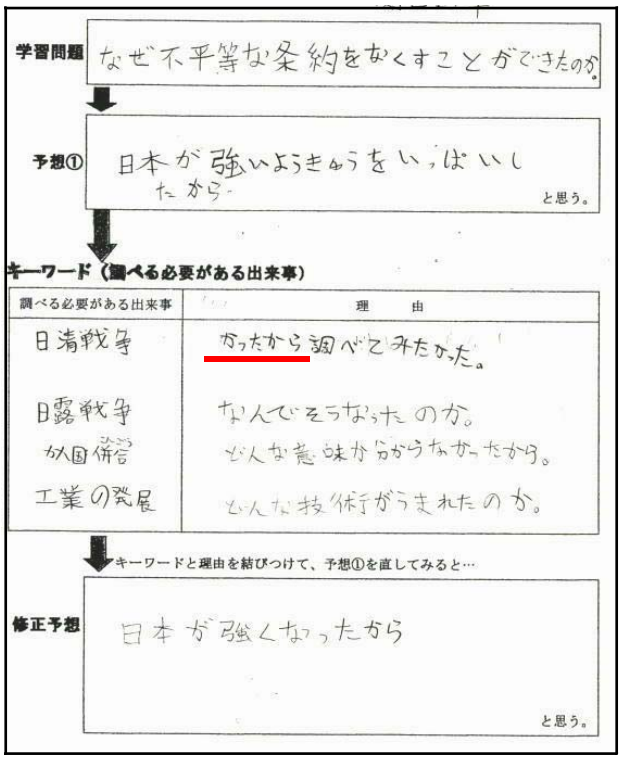
キーワードと理由を結びつけて、予想①を直してみると…と武器

修正予想　日本が2つの戦争に勝ち、日本の領土が増えて、日本の国際的な地位が高くなったから、不等な条約をなくせた　と思う。

注：アンダーラインは筆者

Ｂ女は、当初、資料２のように明治政府の粘り強い条約改正交渉に着目し、「日本が強い要求をいっぱいしたから」としていた。キーワード１を集約することで、当初の予想を「日本が強くなったから」と修正した。Ｂ女は、その理由として「国の力と不平等な条約がなくなったことが関係しているから」と発言した。このことから、キーワード１を集約するまでのことを念頭に置きながら、キーワード１と調べる理由で挙げたことの中から戦争で勝ったことを日本の強さに結びつけ、予想を「日本が強くなったから」と考え直したものと考えることができる。

資料２　B女の当初予想の変化

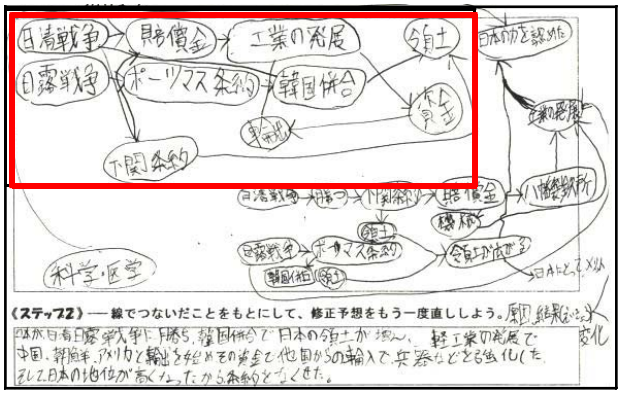


注：アンダーラインは筆者

２　追究結果から学習問題の解決に必要なキーワード2を見いだし、キーワード1・2を線でつなげ、予想を再修正する活動

調べる過程において、個別追究の結果からキーワード２を見いだし、つながりのあるものを線で結んだ上で、修正した予想をもう一度直す活動を行った。修正予想で２つのキーワードを使っていた児童のワークシートからは、「日本は日清戦争と日露戦争で勝って、土地を広げたから他の国に分かってもらえた」、「日本は日清戦争で中国と戦い、賠償金をもらい、その賠償金を工業を発展させて土地を手に入れたから」など、記述が具体的になったことをうかがえた。また、当初予想を書けなかった児童は、「日本が日清、日露戦争に勝って強さが認められて、工業が発展して技術が認められたからなくすことができた」と記していた。修正予想で３個あるいは４個のキーワードを使った児童では、「日清戦争で勝って賠償金をもらった日本は、重工業を発展させ、武器を多くし強くなって日露戦争でも勝ってポーツマス条約を結び、韓国を併合させたから領土が広がり、他国よりも強くなったから不平等な条約をなくすことができた」、「２つの戦争に勝ち、領土をとり、増えて、賠償金で八幡製鉄所を作り発展し、強くなったから」などの記述が見られた。また、児童の中には、「日清戦争・日露戦争で勝って領土を増やしたり、ものを作る技術をもったりして、他の国に日本の力を認められたから」というように、国力の充実と国際的地位の向上にまで考えを広げた児童もいた。

資料３　キーワード1・2のつながり（A男）



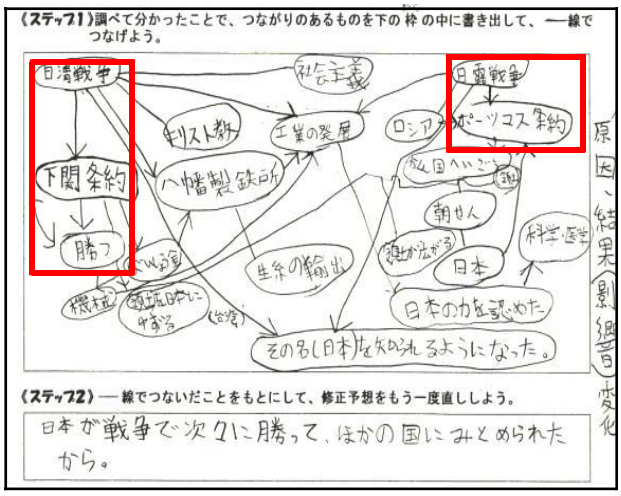
注：枠は筆者。

枠内はA男が見いだしたキーワード1を表す。

Ａ男は修正した予想を確かめようと、資料集とインターネットを使って調べ、４つのキーワード１を自分なりに調べ上げた。資料３のように「日清戦争」からは「下関条約」、「賠償金」、「工業の発展」を、「日露戦争」からは「ポーツマス条約」を、「工業の発展」からは「輸出」、「賃金」を、「韓国併合」からは「領土」をキーワード２として見いだし、それらを線でつなげた。そして、「日本が日清、日露戦争に勝ち、韓国併合で日本の領土が増え、軽工業の発展で中国、朝鮮、アメリカと輸出を始め、その資金で他国からの輸入で兵器などを強化した。そして、日本の地位が高くなったから条約をなくせた」と予想を修正した。

Ｂ女は、４つのキーワード１は自力で調べることができたが、資料４のように、キーワード２としては「日清戦争」からは「下関条約」と「勝つ」を、「日露戦争」からは「ポーツマス条約」を見いだしただけであった。そして、「日本が強くなったから」という予想を、「日本が戦争で次々に勝って、他の国に認められたから」と直していた。Ｂ女の追究結果を学習プリントで見ると、「日本が２つの戦争に勝った」ことが記されていた。また、他の国に認められたことに関しては、「日露戦争後に、他の国から朝鮮での日本の利益と政治の指導を認められたこと」をとらえていた。つまり、Ｂ女は追究結果からキーワード２を見いだすことはあまりできなかったったが、戦争に勝った

資料４　キーワードの１･２のつながり（B女）



注：枠は筆者。

枠内はB女が見いだしたキーワード1を表す。

ことと強くなったことを結びつけ、それが他の国から認められるということにつながってくると考えを広げたと考えることができる。

以上のように、調べる過程では資料を読み取る力､調べる力によって記述内容に差はあるものの、ほとんどの児童が調べ分かったことの中からキーワード２を見いだし、具体的に、しかも関連性をとらえながら考えを広げることができていた。

まとめる過程においては、まず追究結果を伝え合い、それらの中から新たなキーワード２を見いだし、それを自分が書き出し線で結んだ中に付け足す活動を行った。交流の場面で挙げられたキーワード２には､「八幡製鉄所」や「鉄道（南満鉄)」といった学習問題の解決に必要となるものが見られた。また､直接的に学習問題とかかわらないが、「足尾銅山」､「社会問題」､「独立運動（韓国)」といった広げる過程で扱う内容をキーワード２として付け足した児童もいた。

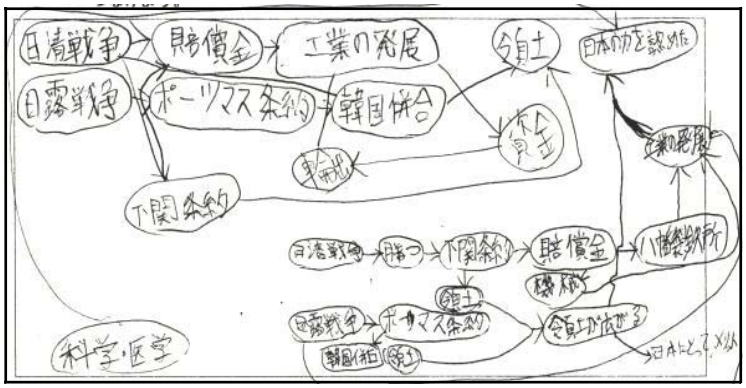
Ａ男は全てのキーワード１を調べ終えていたため、不足した内容のメモはとるものの新たにキーワード２を付け足すことができなかった。Ａ男と同様に全ての追究を終えた児童の大半は、新たにキーワード２を付け足すことができなかった。しかし、キーワード１を調べ終えなかった児童やＢ女のような児童は、注意深く発表を聞きながら学習プリントにメモをとっていた。そして、Ｂ女のように新たなキーワード２を付け足し、線でつないでいった（資料４)。また、調べる過程で自分の追究結果を基に修正予想を直せなかった児童も社会的事象相互のつながりを考え、線で結ぶことができていた。授業後には、「調べたことのつながりが分かりやすかった」､「頭の中で考えないで紙に書けたから、考えをまとめやすかった」など、線でつなげる活動に対して全児童が好意的な感想を記していた。

３　関連のある社会的事象相互の因果関係をとらえた上でキーワードを使った文章で自分の考えを再構成する活動

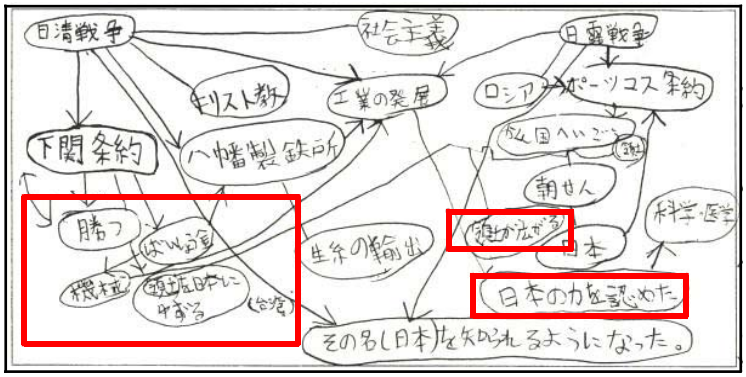
まとめる過程において、線で結んだ社会的事象を因果関係に着目して､線を矢印に変更した上で、学習問題に対する結論をキーワード１・２を使って文章でまとめた。そして、８名の児童は「日清、日露戦争に勝って工業を発展させたり、韓国併合で領土を広げたりしたから不平等な条約をなくすことができた」といった内容で考えをまとめることができていた。この内容に「科学や医学の技術（知識)」までふれながら、条約改正について考えを深めた児童は９名いた。当初予想を立てられなかった児童は、「日清戦争、日露戦争で勝って賠償金をもらって工業を発展させて、日本を認めさせて条約をなくせた」と自分の考えをまとめていた｡修正予想を直すことのできなかった児童は、自分の考えをうまく文章で書くことはできなかったものの、「戦争で勝ち、認められた。武器を強化したり八幡製鉄所を賠償金で作る。工業が発展したから。日本の領土が広がり、日本の力が認められて」と記していた。授業後の感想には、「出来事の関係（原因と結果）が矢印で分かりやすくなった」､「どういう順でつながっているかが分かった」など大半の児童が記していた。これらのことから、因果関係に着目したことが、関連している社会的事象の順序性をとらえることにつながり、複数のことが条約改正とかかわっていることに気付けたと考えることができる。さらに、線を矢印に直し全体で確認した段階では、矢印に沿って指を動かす姿があり、因果関係をとらえるために矢印を使って整理する活動は、学習問題の全体像をつかむ上でも効果があったと考えることができる。

Ａ男は、資料５のような矢印への変更を基に、「日本が日清、日露戦争に勝ち、清が払った賠償

資料５　キーワードの因果関係のとらえ（A男）



資料６　キーワードの因果関係のとらえ（B女）



注：枠は筆者

枠内はB女が朱書きした部分を表す。

金で武器を強化して八幡製鉄所も作って、工業が発展して、韓国併合や下関条約でも領土が増え、いろいろな場面での日本の力が他国に認められたから不平等な条約を改正することができた」とまとめた。記述内容の変化から、A男は時間軸を意識しながら因果関係をとらえる中、いくつもの社会的事象がかかわりあっていることに気付くことができたことが分かる。

B女は、資料６のように因果関係をとらえた後、「日本は日清戦争、日露戦争で勝って、どんどん工業を発展させて、外国に日本の力を認められるようになった。さらに、科学・医学の技術を高めていって、不平等な条約をなくすことができた」とまとめた。B女は、文章表現上、領土の広がりという視点が落ちてしまっている。これは、因果関係を全体で確認する中、「領土の広がり」などを朱書きしていたことから、初めてキーワードとしてとらえたため、書き加えることができなかったと考えられる。しかし、前段階の修正予想と比べ、その内容は具体的になっていた。また、「自分とみんなの発表したことが意外なところでつながって」と記した感想からも、矢印への変更を基にして工業の発展や科学・医学での活躍が外国から日本が認められ、それが条約改正につながったと考えたことをうかがうことができる。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　キーワードを使って学習問題に対する予想を修正することは、自分の考えを具体的にしながら広げたり深めたりする上で効果的であった。

○　見いだしたキーワードを線でつないだり、線を矢印に置き換えたりする活動は、追究結果を関連させて考えるために効果的であった。

○　追究結果や交流結果から見いだしたキーワード同士の関連性や因果関係をとらえた上で学習問題について思考を練り上げることは、社会的事象の意味を考える力を高めるために効果的であった。

２　課題

学習問題の解決に必要なキーワードを見いだしたり、その関連を考えたりすることが上手くできなかったりした児童や、予想の修正を重ねる中で学習問題をほぼ解決できても思考の深まりを得るまでは至らなかった児童がいたという課題が残った。今後、必要な資料や情報を収集する中で、自ら比較・関連させる力を高める指導の工夫や課題設定の工夫が必要と考える。

（担当指導主事　峯岸　哲夫）

Web検索キーワード

【社会－小　歴史学習　社会的思考力　問題解決学習　表現活動　キーワード】

＜参考文献＞

・文部科学省　『初等教育資料』平成17年６月号　東洋館出版社（2005）

・大森　照夫、佐島　群巳、次山　信男、藤岡　信勝、谷川　彰英　編　『新訂社会科教育指導用語辞典』　教育出版（1993）

・北　俊夫　著　『社会科教育全書43社会科の基礎・基本－選択学習の新しい提言－』　明治図書（2003）